

北海之光

7月号 北海道教区報

主にあってはあなたがたの
労苦がむだになることはない
コリントI 15章58節

発行所 北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電話 011-717-8181
FAX 011-736-8377
E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp
http://www.nssk-hokkaido.jp
発行人 植松 誠

「力を合わせて働く者」

札幌聖ミカエル教会牧師
新札幌聖ニコラス教会管理牧師
司祭 コルベ 下 澤 昌

利用されました。数年前から
外国籍の寮生が絶え、教会は
熟慮の結果、その役割を終え
たと判断し、今年の三月末を
もって閉寮となりました。

札幌聖ミカエル教会の現聖
堂は一九六〇年、アントニン・
レーモンドの設計により建て
られました。来年、六〇周年
を迎えます。このところ、建
築関係の書物や雑誌への掲載
が増え、多くの見学者が訪れ
ています。聖堂ばかりに目が
止まりがちですが、実は、こ
の教会の特徴は、草創期から
幼稚園と男子青年寮を設置し、
子どもたち、青年層への宣教
を重視してきたことにありま
す。初期の司祭たち、信者さ
んが、どのような教会形成を
目指すのか、かなり明確なヴィ
ジョンを持っていたことが伺
い知れます。

青年寮は二九年前に聖ミカ
エル国際青年寮に形を変え、
外国人留学生と日本人学生の
共同生活のために新築され、
北大生を中心に多くの学生に

建物は今後の利用について、
昨年からずっと考えてきまし
た。意見を集約した結果、ひ
とまず大きな改修は行わず、
現状のまま使うことになりま
した。建物の名称は信徒への
アンケートの結果、「エンジェ
ルH I R O B A」と名付けら
れました。五、六月にかけて、
従来の国際青年寮の備品の撤
去、新たな備品の導入を行い、
ほぼ内部の環境が整いました。
一階には広いリビングがあり、
すでに教会のロザリオの祈り
会、幼稚園のお母さんたちの
会合、英会話のレッスンなど
に利用されています。また普
段は、園児の送迎時などにカ

フェとして、安らぎの空間に
していただくことも可能です。
二階は一〇室あり、日曜学校
の部屋、応接室、歴史資料室、
宿泊可能な部屋が二室、災害
時の備蓄品を保管する部屋が
あります。去る六月二三日に
はお披露目会を行い、正式に
運用が始まりました。二九年
前に神様から与えられた建物
が、教会、幼稚園とともに、
新たな宣教の器として用いら
れることになりました。

「わたしたちは神のために力を
合わせて働く者であり、あな
たがたは神の畑、神の建物な
のです」
(Iコリント三：九)

パウロは、私たちの信仰の
実体を、畑であり建物である
といっています。畑はやがて大き
な実を結び、建物は、そこに
どのような者が住み、そこに
何が納められているのかを、
人々に目に見える形で示しま
す。私たち自身が、神さまが
いてくださる建物、聖なる神
殿です。同時に、教会も、保
育園や幼稚園などの施設も、
単なる建物を超えて、それが
神の業であり、信仰のゆえに

存在することを地域や社会に
伝えていくのです。
この度のエンジェルH I R
O B A開設の経緯で、当たり
前だけ大切なことに気づか
されました。それは、教会で
あれ、施設であれ、いくらお
金があったとしても、たった
一人の働きでは始まらないと
いうことです。「神のために力
を合わせて働いて」こそ、そ
れは実現します。信仰は自分
の心の問題、それが最も大切
で、その次に教会の交わりや
維持管理、施設の運営がある
といった図式は、どうやら正
確ではないのかもしれない。
むしろ本物の信仰は、自分の
殻を破って、力を合わせて働
くことに向かわせるものに違
いありません。

そもそも神さまは、創造の
御業の完成、この世界の完成
という壮大な事業のために、
あえて信仰の乏しい私たちを、
力を合わせて働く者として召
して下さっているのです。
感謝です。





—心の窓をひらいて—

福音と私(二二八)



—今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか—

岩見沢聖十字教会信徒

ダビデ 渡部 哲哉

好きな聖句

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」

僕と聖公会との関係

僕の母方の大祖父、大祖母は平取聖公会の信徒で、祖母は養女に出されたその後も実家の遠藤家と親交があり、母は中学・高校の頃、苫小牧のパウロ遠藤紀康の家に下宿し、苫小牧聖ルカ教会の日曜学校や礼拝で奉仕していたことから、母も自然の流れで受洗し、結婚後も信仰を大切にしておりました。僕は子どもの頃から札幌聖ミカエル教会(以降ミカエル)の主だった礼拝には母に連れられ通っていたので、心の中に違和感なく教会がありました。

一九九七年の十一月に大祖母であるルデア遠藤フミが亡くなったのですが、その時の葬式を行ってくださったの

が、大友正幸司祭で「そろそろ哲哉君も洗礼を受けてみてはどうだい。」と問われその場で快諾し、洗礼名は大祖父と同じ「ダビデ」をいただきました。

農業との出会い(農業高校・酪農学園大学・デンマーク王国) 一九八九年、高校は母が幼少時代を過ごした静内町(現新ひだか町)にある静内農業高校に進学しました。札幌で高校受験を失敗し、その際に真剣に今後の将来を考えるよう言われ、単純に「ソーセージの製造を学びドイツに行きたい。」という思いを持っており、当時、北広島西高校の理科教員でミカエルの信徒だった横山明光先生(現在司祭)のアドバイスで「静内農高ならそういった学習ができる。」とのアドバイスで二次募集に挑み進学しました。多感な時期に故郷札幌を離れ寮生活を経験し、畜産の学習を

通して人間は動物の生命をいただいで生きているということ、罪深き生き物であると学んだことはクリスチャンとしても大きな収穫でした。高校時代は畜産科で乳牛・養豚・養鶏・食品加工の基礎を学び一九九二年に酪農学園大学へ進学をしました。

酪農学園大学は日本基督教団の学校で一・二年次は礼拝が毎週ありました。三年次以降は任意でした。時々、ミカエルの礼拝に参加しながら学生生活をしましたが、その時には心の中で将来クリスチャンになるのではと思いつながら過ごしていました。三年次で終えた時にデンマークでの酪農実習を一年間行いう機会を得て、厳しい労働生活の中、休日やバカンスは住んでいた街や北欧の教会を訪れ、教会の建築物の凄さに驚く一方、小さな教会にもパイプオルガンがあるなど、信仰を育む施設は整っていても、ホストファミリーを含めた多くのデンマーク人は教会を訪ねない事実を知りました。農業を学ぶ側、週末やクリスマスチャンフェスタはホストファミリーと教会へ、毎日温かいスープのある生活といった勝手なス

テレオタイプイメージは打ち砕かれ、僕自身の信仰心を確かめる経験となりました。農業教員という仕事、そして信仰 帰国し、実験漬けだった大 学四年生を終え、ニセコ高校に寮監をしながら一年間勤務しました。一九九七年のことです。その際、前記のとおり洗礼を受けました。その年の採用試験に合格し、一九九八年からは母校である静内農業高校に着任しました。所属は専門外の農業科、大変苦勞をしました。八月には植松主 教様から按手を授かりました。当時は教会に限らず、初 対面の方や親戚に職業を聞かれ困ることがしばしばありま した。「学校の先生なさって いるのですか?なんの教科 ですか?」「農業です。」「そ んな教科あるんだ。」という 時代でした。二〇一八年の 秋田県立金足農高の甲子園 の活躍や、マンガ「銀の 匙」、今、放送中のNHK連 続テレビ小説「なつぞら」の おかげで近年は農業高校もメ ジャーとなり説明がしやすくなりました。静内の隣町の新冠には聖フランシス教会があり、多忙でなかなか教会に足

を運べない僕を迎えてくれました。その後、当時苫小牧東高校長だった横山先生の導きもあり、学生時代からの専門分野である乳製品の指導をさせていただけることとなり、十勝の土幌高校に赴任しました。その際は帯広市に帯広聖公会があり、こちらも時折出向きましたが、温かく迎えてくれました。現在、美唄高校・美唄尚栄高校・岩見沢農業高校と食品加工のプロパーとして一〇年間空知地区にお世話になっています。農業と信仰一見関係ないように思われるかもしれませんが、イエス様は農夫であり、漁師な訳で(解釈はともかく)、聖書の世界には多くの農民や漁民が出てきます。このことも僕とキリスト教を深く結びつけております。ところで美唄に転勤してすぐに教籍をミカエルにしたのですが、妻春水と二〇〇七年に婚約式・二〇〇八年に聖婚式をし、植松誠主教様、李司祭(現口サングェルス教区)、横山司祭はじめ、ミカエルの信徒の皆様を支えられて家庭を持つことができました。父と母のキャサリン邦子もこちらで聖婚式を挙げたということです

三頁下段に続く

常置委員会報告

第八回 六月二一日

- 一、信徒奉事者認可の件
- ・新札幌聖ニコラス教会から推挙された信徒奉事者を認可することを承認した。
- 二、教区会の議案に関する件
- ・教区宣教一五〇周年に向けて、実行委員会を立ち上げる。一五〇年史作成に関して、記念事業に関して、予算に関して今後検討する。
- ・稚内聖公会、厚岸聖オーガスタン教会の今後について、法規上の「伝道所」とする議案を検討する。
- ・札幌キリスト教会のパイプオルガン修繕のための教会と関係者への募金を承認する。

主教室より



大阪や東京では見られなかったのですが、北海道の新聞には道内の方々の訃報が掲載されます。勿論、道内の逝去者全員ではなく、掲載の了解を得た方だけなのでしょうが、それでも、毎日約百人前後のお名前が載ります。いつもその逝去者欄には、大体目を通すことにしています。教会関係の方でしたら牧師から連絡があるのでわかつているのですが、それでもそこに掲載されている皆さんの名前を読み、年齢を見ます。多くの場合、八〇代、九〇代、最近は一〇〇歳を超える方も多くなりました。数行に書かれている葬儀場

と喪主、葬儀委員長の名前。葬儀場が教会になっていてのを見ると、「ああ、この方はクリスチャンだったのだ」と何か親近感を覚えます。北海道広しと言えども、一日にこんなたくさんの方々が人生を終えて逝かれることに、何か感動のようなものも覚えます。

ただ、見ていて、「えっ?」と「と思うこともあり。若い方、子ども。その年齢の若さに、そしてご家族の悲しみを想像して絶句することもあります。親御さんは今、どんな思いで子どもを送ろうとしておられるのか。幼い子ども、若いお母さん、お父さんは…。時には、四〇代、五〇代の方の喪主がその方のお母さ

案を検討する。

四、札幌キリスト教会のパイプオルガン修理のための募金に関して

・札幌キリスト教会のパイプオルガン修繕のための教会と関係者への募金を承認する。

んであったりするとたまらない思いになります。「死」というものはやはり悲しく、辛い。イエス様が、親しくしておられたベタニアのラザロが亡くなった時に流された涙。おそらく、それはイエス様にとって初めての涙ではなく、幼いころからいろんな人との別れに流してこられた涙であつたことでしょう。「死」を「永遠の命」へと根本的に覆す十字架の贖いとご復活は、人間の「死」に対する、主の、はらわたが抉り出されるような憐みの涙から始まったのではないのでしょうか。私たちは何よりもまず、「死」が終わりではないことを宣べ伝えたいのです。

主教 ナタナエル 植松 誠

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

八月一四日(水)
午前一〇時三〇分
於 主教座聖堂

- 次の方々を覚えて祈ります。
- 執事 高津 守三郎 一九〇九年八月二日
 - 司祭 林 兼治 一九三八年八月四日
 - 執事 高橋 俊夫 二〇一〇年八月四日
 - 伝道師 高野 万次郎 一九三五年八月五日
 - 司祭 上田 貞雄 二〇〇六年八月七日
 - 伝道師 清川 成七 一九五八年八月一〇日
 - 伝道師 石原 園井 一九一五年八月一日
 - 司祭 村瀬 敬輔 二〇〇九年八月二七日
 - 執事 高橋 俊六 一九四五年八月三〇日

から大変嬉しい経験でクリスチャンとして心を新たにしました。その後、大叔父のアンデレ遠藤淳治の勧めもあり、岩見沢聖十字教会に教籍を移し、不真面目な信徒ではあります、こちらでも教会に温かく迎えていただいております。また、娘の柊子も二歳から岩見沢聖十字幼稚園にお世話になり、幼稚園でしっかりと遊びながら、教会や幼稚園との交わりの中で毎日を過ごしております。僕自身は聖十字幼稚園のPTA会長を仰せつかり、これもまた教会との交わりを深くしてくださいました。きっとこれもイエス様の導きでしょう。これからも教会との結びつきを大切に、僕たちの日頃の糧を生産できる将来の農業技術者を育成していきたいと思えます。主に感謝します。

堅信式受領 おめでとう

- 札幌キリスト教会
- サラ 金 時江
 - ガブリエラ 清水香奈子
 - マグダラのマリア 高田 美樹
 - マルタ 小倉千枝子
- マリア 小倉由美子 (六月一六日)
- サラ 吉川 望
- ガブリエラ 吉田 愛 (六月二六日)
- 小樽聖公会 ヒルダ 石田知世子 (六月三〇日)

原発のない世界を求める

国際協議会参加報告

報告者 帯広聖公会信徒 ダニエル 尾 関 敏 明

五月二八日(火) 〓三二日

(金)の四日間、日本聖公会(原
発のない世界を求める国際協
議会)が東北、仙台市近郊の
茂庭荘にて開催されました。
北海道教区からは、植松主教
大町司祭、丸山悦子姉、およ
びスタッフとして尾関が参加
しました。基調講演には、ド
イツ・ミュンヘン工科大学教
授の、ミランダ・シユラーズ
さんが招かれました。

講演者として、日本基督教
団石巻栄光教会の川上直哉牧
師、海外からの発題者として、
台湾聖公会・頼榮信主教、大
韓聖公会・金基錫司祭、日本
聖公会・相澤牧人司祭が招か
れました。その他、米国、韓国、
フィリピン、英国など海外聖
公会関係者が参加する国際色
豊かな協議会でした。日本聖
公会は各教区の主教、司祭、
信徒の三名の参加が要請さ
れ、それに管区、正義と平和
委員会、管区主事、など一七
名のスタッフ、スチュワード
など総勢六八名の参加により

開催されました。

二〇一一年三月一日の東
日本大震災に引続き発生した
東京電力福島第一原子力発電
所の爆発事故の収束ままだら
ない東北で、このような国際
会議が開催される事は大きな
意義があると思います。ミラ
ンダ・シユラーズさんは、福
島原発の事故の発生直後、メ
ルケル首相とドイツ連邦が招
集した「安全なエネルギー供
給に関する倫理委員会」(通
称、脱原発倫理委員会)の
一七人の委員の一人です。ド
イツは、優れた技術を持つ日
本でこのような過酷事故が発
生したことにより強い衝撃を受
け、「原発は技術や政治・経
済の問題ではなく、倫理の問
題である」として、現役の政
治家や専門技術者ではなくキ
リスト教会代表や知識人によ
る協議を行ったのでした。そ
して四か月後には、二〇二二
年に原発をゼロにするという
政策を決定したのです。その
決定の背景には、事故直後に

行われた、一〇〇万人を越え
る国民の脱原発を要求する抗
議行動がありました。ドイツ
にはこのような問題を徹底的
に議論するという文化がある
そうです。そしてこの大きな
政策転換を行う根拠として、
①原子力発電所の安全性は高
くても、事故を完全に防ぐ事
は出来ない。②事故になった
場合はほかのどんなエネル
ギー源よりも危険である。③
次の世代に廃棄物処理などを
残すのは倫理的問題がある。
④原子力より安全なエネル
ギー源がある。⑤地球温暖化
問題もあるので化石燃料を使
うことは解決策ではない。⑥
再生可能エネルギー普及とエ
ネルギー政策で原子力を段階
的にゼロにしていくことは将
来の経済のためにも大きな
チャンスになる。などを上げ
ています。

は、日本での脱原発の運動は
中々進まないが、「立ち止まっ
てはならない」、「核兵器」と
「原子力発電」は「一つのコ
インの表と裏」、福島にはま
だ多くの苦悩と悲惨の中に取
り残された方々がいる。私た
ちはこの惨状をもたらず原発
に抵抗する者であり続けたい
と述べられた。日本聖公会の
相澤司祭は「いのちを守るた
めに」原発のない世界を求め
て」と題する発題をされまし
た。その中で紹介された「あ
とから来る者のために」とい
う詩が心に強く残っていま
す。

あとからくる者のために 苦
労するのだ
我慢するのだ 田を耕し 種
を用意しておくのだ
あとからくる者のために 山
を 川を 海を きれいにし
ておくのだ
ああ あとからくる者のため
に みんなそれぞれの力を傾
けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
未来を受け継ぐ者たちのため
に みなそれぞれ自分でき
る何かをしてゆくのだ

(坂村真民「詩集・詩国」より)
参加者はこれらの講演のあ
と、二つのグループ討議を行
い、その思いは声明として纏
められました。その中で、今
後、取り組むべき七つの項目
が提言されました。各教区は
これらをもとにそれぞれの方
法で取り組むことになりま
す。(この声明は今後、常議
員会の審議を経て公開される
予定)



原発のない世界を求める国際協議会参加者

「ミランダ・シュラーズさん連続講演 in 北海道」報告
 2019.5.31 (金) ~ 6.2 (日)
 報告者 司祭 ペテロ 大 町 信 也

【函館市役所訪問】
 五月三十一日、ミランダ・A・シュラーズさんと、池住圭さ

の意義と成果を報告したいと思

【函館集會】
 六月一日、午後一時より

【集會の意義と成果】
 ・大間、泊、幌延と北海道が

・ドイツでの事例報告を通し

仙台で開催の「脱原発を求
 める国際協議会」の後を受け、
 協議会で主題講演を務められ
 たミランダ・A・シュラー
 ズさんを北海道に迎え「ミ
 ランダ・シュラーズさん連
 続講演 in 北海道」が「北海
 道を原発ゼロ
 の大地に」を
 テーマに行わ
 れました。そ
 れは、三泊四
 日に及ぶキャ
 ラバンとなり
 ました。ミラ
 ンダさんの講
 演内容につい
 ては、前ペー
 ジの報告に詳
 しいので重複
 を避け、時系
 列的にプログ
 ラムの概要を
 紹介し、集會

ん（日本聖公会原発プロジェクト）、尾関敏明さん（実行
 委員会事務局長）と大町司祭
 （同委員長）の四人は、藤井
 司祭の案内で、函館市役所へ。
 函館YWCA、大間原発訴訟
 の会の方々と合流し、函館市
 が原告となつている大間原発
 建設差し止め訴訟の担当部署
 の方々と懇談。現在建設中
 の大間原発が、毒性が強く危険
 性が指摘されているフルモツ
 クス（プルトニウムとウラン
 の混合燃料だけを使用）での
 世界初の原子炉である事。大
 間原発から津軽海峡を挟んで
 三〇キロ圏内に位置する函館
 は、一旦事故が起これば市全
 域が放射性物質により汚染さ
 れ、市民の離散、観光産業・
 漁業・農業を基幹産業とする
 道南地域に壊滅的な打撃を与
 える事。これらの理由から建
 設中・計画中の原発は無期限
 で凍結すべきという函館市の
 立場をお聴きし、それを支持
 する市民の高い意識や運動に
 ついてミランダさんを交え熱
 心に語り合いました。引き続き
 市役所内にある市政記者ク

ラブで記者会見を実施しまし
 た。
 【市民団体との交流食事会】
 函館聖ヨハネ教会に移り、
 ミランダさんを囲み大間原発
 建設差し止めのために活動し
 ている市民運動の方々や市内
 教会関係者の方々と夕食を共
 にしながら懇談しました。夕
 食を用意して下さった一〇名
 以上の函館聖ヨハネ教会の皆
 さんも共に参加され、聴く者
 は函館における長年にわたる
 市民の粘り強い運動に感銘を
 受けると共に、ミランダさん
 は市民運動が盛んなドイツの
 状況などについてお話し下さ
 いました。

【札幌集會と交流会】
 六月二日、午後五時より聖
 公会札幌キリスト教会を会場
 に、札幌集會を開催。礼拝堂
 の上階ギャラリーにも人が入
 り約二百人の集會となりました。
 ミランダさんの講演に続
 き、「泊原発の廃炉をめざす
 会」の共同代表で弁護士由市
 川守弘さんが、応答者として
 発言されました。また、幌延
 の地で「高レベル放射性廃棄
 物処理施設」計画の反対運動
 の中心に立たれている久世薫
 嗣さんからのメッセージが会
 場で紹介されました。五〇通
 もの質問ペーパーに対して、
 ミランダさん・市川さんから
 の丁寧な回答をいただきました。
 集會後は、会場を一階ホー
 ルに移し交流会を開催。集會
 の第二部のような熱気に溢れ
 る時間となりました。

・再生可能エネルギーを採用
 する際も、環境破壊や住民の
 健康に影響を及ぼす場合があ
 ること等から大企業主導では
 なく住民参加の中で実現する
 事の大切さを確認しました。
 ・エネルギー転換の前提は、
 私たちの節電など身近な生活
 の在り様を変える事が最も大
 切である事を確認しました。
 ・今回、二二のキリスト教諸
 教派・キリスト教関連団体と
 脱原発に取り組む市民運動グ
 ループの協賛により実施され
 た事は、今後の脱原発のネッ
 トワーク構築に意義あるもの
 となりました。
 ※函館集會の内容は、DVDに
 収録して各教会に配布されま
 すので、是非ご覧ください。





▽旭川聖マルコ教会

六月。草木も元気になり、草刈りシーズンの到来です。

二日、教会委員会を日程変更し、「ミランダさん講演会」に一〇名ほどで参加しました。

二三日は、広谷司祭が稚内聖公会の主日礼拝のため不在となり、久々に言葉の礼拝となりました。その後開かれた臨時教会委員会では、今後のマルコバザーについて話し合いました。

三〇日は出会いと交わりの日。遠く紋別より、阿部芳克司祭がご夫妻でおいでになりました。愛餐会では、歌と手品でマルコらしい歓迎会となりました。

▽小樽聖公会

教会では毎年昇天日の近くに墓地礼拝が行われていました。今年は六月二日(日)主日礼拝後、好天の中、共同墓地で墓参の祈りを行い、信徒墓碑をまわりそれぞれにお祈りをささげました。一四日(金)～一六日(日)の三日間は教会カフェ・ミニバザーが開催され、週末ということもあり多くのお客さんで賑わいました。三〇日(日)の「出会いと交わりの日」では、植松主教様が来てくださり、礼拝ではヒルダ石田知世子さんの堅信式も行われ、喜びを共にいたしました。

▽新冠聖ノラシス教会

六月九日「聖霊降臨日」の聖餐式をお献げし、これから半年に及ぶ聖霊降臨後の季節が始まりました。エルサレムへと向かう旅空の下、弟子たちを教育・訓練されたイエスさま―わたしたちも自分の十字架と向き合いながら、お教えを身に付けたいものです。

三〇日「出会いと交わりの日」―函館の藤井八郎司祭と

直夫人をお迎えして「霊の糧」に与りました。遠路、まことに「苦労さまでした。心より感謝いたします。内海司祭は留萌キリスト教会へ遣わされました。

▽帯広聖公会

五月末には阿部恵子執事の引越しも終わり、六月から牧師館の定住聖職者となりました。定住者不在の約一年半の期間、信徒にて牧師館当番を決め交代で担当して来ましたが、少しくたびれて来たところでしたので、定住聖職者派遣の決定は、大変ありがたい事でした。

二三日(第四主日)は阿部執事のサポートを得ながら十数年振りとなる寺本司祭による聖餐式司式の奉仕。信徒一同大感謝。今後も、原則として第四主日は同形態にて聖餐式を行って行く予定です。

▽稚内聖公会

このところウィークデイに礼拝を行っていたが、六月は久しぶりに主日(二三日)に聖餐式を行う。礼拝後、現在信徒一人となった稚内聖公

会の将来について話し合う。二三日と二四日、田上キヨ子さん、稚内カトリック教会、久世薫嗣さん(「エベコロベツ自給の村」を訪ねる。五月から入院中であった久世さんは、退院されて七月に保養に来る福島の子どもたちを迎える準備をしておられた。久世さんが参加できなかった「ミランダさん講演会」の様子を詳しくお話しする。

▽苫小牧聖ルカ教会

「出会いと交わりの日」聖マーガレット教会、池田司祭をお迎えして司式説教を頂く。穏やかな人柄にほっこり良き交わりのひと時でした。昨年「み言葉の礼拝」が月一度行なわれていますが勉強会を行いました。

教会資金の為のマーマレードジャム作りをしました。幼稚園は運動会に向けて連日練習中です。当日は晴天であることを祈る。

船員奉仕会、皆様に支えられ活動しています。ある日、中国船員の一人がロレックスの時計が欲しいと、ドル交換

して買い求めました。その笑顔が嬉し。

▽平取聖公会

六月三〇日は「出会いと交わりの日」でした。藤井牧師を函館からお迎えしました。藤井牧師は二〇一五年の新冠での道南分区の講壇交換以来、四年振りのことでした。ルカによる福音書九章五七

節「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人に、「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」を(ヘロデ王とローマ兵が待ち受けているがそれでも付いて来るのか)と説教されました。感謝

▽函館聖ヨハネ教会

内海牧師は留萌キリスト教会でした。一日、ドイツよりM・シユラーズ姉を迎え、「原発のない世界を求めて」の講演会開催。脱原発を願う市民の方々約百名との交わりを深める。二三日「地域と共に歩む教会」の実現企画コンサート第二弾「表出と静寂」(クラヴィコー

ドとチェンバロによるバロック音楽の楽しみ)。百名を超す人々が、静寂の中の音色に耳を澄ませます。三〇日「出会いと交わりの日」上平更執事をお迎えする。前夜歓迎交流会では、恒例の認知症予防運動で体を動かす。月末予定されていたオーブンガーデンは雨天のため中止となったが、バラ等たくさんのお花々が咲き乱れる中、聖堂来訪者多数。

▽札幌聖ミカエル教会

六月に入り、教会周辺の草木の伸び方が著しい。信徒有志の環境整備作業も本格化しています。旧国際青年寮の建物はエンジェルH I R O B Aと命名され運用開始。これらが楽しみです。一四日、ロザリオの祈りでは、横山弥生さんのお話を聴く。正しい性教育の必要性、またそれが無いため起こる悲劇に心を痛めました。二二日は幼稚園運動会。豪雨により体育館で行う。これもまた恵み。子どもたちは練習の成果を十分に発揮してくれました。三〇日は日曜学校遠足、四八名の出席

で先生たちは大変。この日、出会いと交わりの日の礼拝は大友司祭の司式、横山光紀さんの奨励でした。感謝

▽札幌キリスト教会

六月からアッシャー団結成。新来者を温かく迎えよう。と心高鳴る。阿部恵子執事を中心に育んできた「子どもの教会」は、新たな協力者を募って継続です。今月赴任された上平執事の初説教は聖霊降臨日とあってペトロの様に力強く響きました。三位一体主日と二六日水曜夜の聖餐式に植松主教様の巡回の下、金時江さん、清水香奈子さん、吉田愛さんが洗礼・堅信の恵みに、高田美樹さん、小倉千枝子さん、小倉由美子さん、吉川望さんが堅信の恵みにあずかりました。三〇日、み言葉の礼拝では、渡辺溢子さんが奨励をご奉仕くださいました。

▽新札幌聖ニコラス教会

上平更先生が札幌キリスト教会にも勤務することになり、当教会の礼拝体制に変更がありました。第二主日は、上平先生が札幌キリスト教会

に行かれるので不在となります。お忙しくなります先生の健康をお祈りしてください。

▽有珠聖公会

二三日、主日聖餐式。沖繩慰霊の日ということもあり、沖繩戦や平和の礎・沖繩愛楽園の事などを共に学びました。礼拝後のお茶の時間、パレスチナの事、また「原発のない世界を求める国際協議会」の事などが語り合われました。三〇日「出会いと交わりの日」飯野司祭様を、はるばるオホーツクの地より迎えて礼拝が捧げられました。土曜日の開館日には今年も多くの方々がバチラー夫妻記念室を訪ねて来られます。絵葉書セットも第二集「絵画と版画に描かれた聖堂」が用意されました。

▽留萌キリスト教会

低温の日が多い六月でした。隣接地で塀の新設工事が行われ、教会裏庭を、作業する工事車両のために開放しました。

▽室蘭聖マタイ教会

六月二日藤井兄によるみ言葉の礼拝。一日白藤啓子姉が退院後一週間で再入院。九日吉野司祭による聖餐式。食事後教会委員会。会計の山本兄説明して下さい。一日から牧師館解体工事が始まる。一六日み言葉の礼拝。一八日田中勇兄が腰の手術のため札幌の病院に入院。順調に回復に向かっている御様子。御家族の上にもお祈り下さい。二三日吉野司祭による聖餐式。この週、牧師館解体工事、ほとんど終了。駐車場が広がる。三〇日「出会いと交わりの日」で飯野司祭が来られ初めての司式、説教に皆感謝。愛餐会で色々なお話をします。

七月にバザーを行うことを決断。ミニ・コンサートには大正琴のグループ(琴萌会)に演奏を依頼し、快諾をいただきました。名寄の藤井さん

夫妻は、品物の準備や床磨きなどに尽力、千葉さんはキャラメル作りの腕を磨き、金岩さんは孫たちに声をかけてそれぞれに準備を進めていました。

出会いと交わりの主日は、平取の内海司祭をお迎えし、再会の感謝の時を得ました。

出会いと交わりの主日に

出会いと交わりの主日に

出会いと交わりの主日に

▽岩見沢聖十字教会

六月三〇日「出会いと交わりの日」では、永谷亮司祭司・説教。ご自身の証しとともにイエスさまに従う事について話される。愛餐会は手作り品の持ち寄りで、少人数とは言え本日の意味を十分に感じる事の出来る一時でした。井上雅博さんは五月末に入院手術され経過良好で今月半ばに退院、現在は自宅療養中です。幼稚園は年長組が、三日市内の他の二園と合同で田植え体験を、二八日円山登山に挑戦しました。合併した新教会を象徴する新しいバナー製作に取り掛かりました。

▽今金インマヌエル教会

六月九日聖霊降臨日七名で礼拝を守る。次回は三〇日、出会いと交わりの日。今金インマヌエル教会では大変お世話になった下澤司祭をお迎えの予定です。今年も大バーベQでおもてなしの予定であります。一七日は境内整備のために六名参加。草刈り作業のため、木も数本切りました。教

会周囲の基盤整備のため今まではまったく違う風景となりました。遊楽部岳が一望できます。七月一四日は函館聖ヨハネ教会におじゃまして合同礼拝の予定です。皆さんにお会い出来るのが楽しみです。

▽網走聖ヘテロ教会

六月、駐車場周りのコスモスが丈を伸ばしています。今月の聖書の勉強会出席者二名ペテロの会も二名と、少ない参加数でした。でもいつも通りにプログラムは進み、豊かな時間を頂いています。久々にガラス拭きを行いました。主教巡回礼拝出席者九名、出会いと交わり松井司祭礼拝四名と少ない出席者数でしたが、ファミリーホームの子ども達の元気な声や動き回る姿が混じり合いました。いつもは一回の会食が三週連続で出来、美味しくなあれと祈りながらの食事作りでした。

▽紋別聖マリヤ教会

寒暖の差が一段と激しい六月で、畑作農家や家庭菜園をしている人達には雨不足も心配のひとつでした。二日は主教巡回日で、六名の信徒で迎えし聖餐に与ることができました。感謝でした。三〇日は旭川聖マルコ教会の広谷司祭が来紋。何度かお会いしているにも拘わらずいろいろなお話をする機会がなかった信徒が多かったため、とてもよい交わりの時を持つことが出来て感謝でした。幼稚園では、子どもたちが寒い中、運動会の練習に余念がなく、本番を心待ちにしています。

▽北見聖ヤコブ教会

草刈り・草抜き作業が増えてきた北見です。二三日、主教巡回礼拝。「あなたはキリストをどう思うか」と力強く探られるメッセージをいただきました。三千代さんの奏楽奉仕も感謝。礼拝後のお交わりも主教様のテレビ出演を始め語らいが尽きることはありませんでした。三〇日、出会いと交わりの日では当教会の牧師でもあった甲斐司祭が富美子さんと共に来会。聖餐と御言葉と親しき交わりの恵みをいただきました。飯野司祭

は室蘭と有珠の教会でのご奉仕でした。主に感謝。

▽深川聖三一教会

六月二日、委員会と教会報、発送作業。六日、花の日にちなみ、ひいらぎ荘を訪問、園児とお年寄りの方々との笑いと肩たたき、抱擁。一〇日、道北分区教役者会を甲斐司祭宅で行う。一二日、感電して気絶した鳩を岡本園長宅で看病、回復飛行。チャレンこれを保育園で礼拝の中で演劇化。園長は鳩の絵を使い、長い糸を大天井へ引き揚げて飛行させ、全員で拍手。一六日婦人会、西独首相のアンゲラ・メルケル女史の「私の信仰」の輪読開始。二三日、宣教二一年記念礼拝日。三〇日、出会いと交わりの日、吉野暁生司祭来訪、感謝。

▽釧路聖パウロ教会

釧路の街に元気をと橋南地区に生まれた釧路元町青年団、市民有志約四〇名程を引率し、聖パウロ教会を訪問する。松井司祭から歓迎の言葉と教会の歩んできた足跡を伺

い、ご一緒に聖歌を歌う。市民に広く教会が近づくよう。九日、待望の主教巡回日を釧路・厚岸両教会合同で迎える。主教会メッセージの説明を伺い、愛餐会では宣教部用意の「聖歌はみ言葉」と九曲程の聖歌の学びは楽し。保育園の職員も出席して総勢四四名。

三〇日は「出会いと交わりの日」。阿部恵子執事とは初対面の信徒が多いのですが、説教でご自身の聖職へ導かれたお話を伺い、一同強く心を揺さぶられる。愛唱歌五二一番で愛餐会の暖かい交わりを終える。又礼拝の中で、英国巡礼の旅へ行かれる氏家節子姉の祝福式が行われた。保育園児の野菜栽培が順調です。実りの秋が楽しみです。

一三日からギデオンの協会会員による聖書贈呈活動が道東地区を中心に実施され厚岸教会は宿泊面で協力致しました。

